



学校法人神奈川大学 将来構想について

学園の理念

○建学の精神「質実剛健・積極進取・中正堅実」

本学園は、1928年米田吉盛によって創立され、「質実剛健・積極進取・中正堅実」の建学の精神のもと、今日まで多くの有為な人材を実業界をはじめ各界に送り出し、社会の発展と安定に寄与してきました。建学の精神である「質実剛健」とは、伝統・古典を尊重し、良識を重んじ、正義を貫くという価値観を意味し、「積極進取」とは、困難なことに対して積極的に挑戦し、進歩・進化を求めていくという価値観を意味します。そして「中正堅実」とは、これら二つの価値観を深く自覚し、自律の精神と共生の視点から「探究・調和・融合」することにより、真理・本質を見極め、自主的主体性を持って新たな価値を創造していくことを意味します。

○使命(ミッション)

私たちは、建学の精神のもと、時代と社会の課題や使命を地球的視野から深く自覚するとともに、真理を希求する姿勢を持ち続け、自律の精神と共生の視点から主体的に新たな価値を創造する人材を育成し、未来社会の発展と安定に寄与します。

○100周年に向けた将来像(ビジョン)

海により開かれ、世界との接点となった横浜に生まれた本学園は、多様な価値観の共存する時代に、人の交流と文化の融和、知識と実践の循環、教育と研究の融合による21世紀における「真の実学」を実現し、地域社会そして地球規模の課題を解決する、世界を惹きつけ、世界に発信する学園を目指します。

学園の目標

「競争力を強化し、社会的ポジショニングを高め、魅力ある学園を構築する。」

1. 教育組織総合計画、教員組織総合計画、キャンパス総合計画を推進し、魅力ある学園を構築する。
2. グローバル社会の中核を担う、主体性を持ち新たな価値を創造する「中正堅実」な人材を育成する。
3. 幅広い教養、専門的な知識のもと、人間形成を行う「真の実学」により教育の質を高め、学生・生徒の成長を支援する。
4. 社会の諸課題の解決に取り組む専門的な研究を推進する。
5. ガバナンス及びマネジメントを改革し、経営基盤を強化する。

実行計画の重点事業

1. みなとみらいキャンパス計画の推進
2. キャンパス新総合計画の推進
3. 国際系新学部の新設と魅力的な教育組織の構築
4. 将来構想を推進するための財政基盤の強化



—— みなとみらいキャンパス開設と創立100周年に向けて ——

■新学部設置、教育組織新総合計画

2020年4月開設予定の新学部「国際日本学部(設置構想中)」は、みなとみらいキャンパスの構想コンセプトのもと、国際と日本の融合を重点に、それを特色化できる教育プログラムを設置することを掲げており、本学の社会的競争力とブランド力向上に寄与します。

学科は「国際文化交流学科(設置構想中)」、「日本文化学科(設置構想中)」、「歴史民俗学科(設置構想中)」の3学科を予定しています。国際文化交流学科(設置構想中)においては、文化交流コース、観光文化コース、国際日本学コース、言語・メディアコースの設置により特色化を図り、日本文化学科(設置構想中)においては、国語科教職課程を設置することが予定されており、歴史民俗学科(設置構想中)においては、「歴史学」と「民俗学」を重点的に学ぶことによって学部全体の魅力を創出します。

学部学科の教育プログラムの充実などの新機軸による教育組織新総合計画は、2020年4月の新学部開設、2021年4月のみなとみらいキャンパス開設に向けた経営学部の国際経営学部(仮称)への名称変更の検討、理学部・工学部の再編を含め、順次教育組織の再編などを行っていきます。



■みなとみらいキャンパス計画、キャンパス新総合計画

2011年に横浜キャンパスマスタープランを策定し、3号館や29号館(国際センター)等の建設を進めてきました。2017年4月に、みなとみらい21地区43街区の開発事業者に選定され、新たなキャンパスを設置することが決定しました。

みなとみらいキャンパス開設に伴い、既存の湘南ひらつかキャンパスに設置している経営学部をみなとみらいキャンパスへ、理学部を横浜キャンパスへ移転するため、横浜キャンパスマスタープランを見直し、横浜キャンパス、附属学校及び大学の体育施設のある中山キャンパスを含めた総合的な施設整備計画となるキャンパス新総合計画を推進します。

Ⅰみなとみらいキャンパス計画概要

みなとみらいキャンパスは、これまでの歴史と伝統の上に、世界標準の人材を育成する都市型、未来型キャンパスとして、「国際・日本」が融合した未来「創造・交流」キャンパスを目指し、2020年秋に竣工、2021年4月の開設を予定しており、校舎は高さ約99m、地上21階、地下1階、延床面積約49,600㎡の建物となります。

設置学部は、2020年に開設を予定している国際日本学部(設置構想中)、外国語学部、経営学部(※)のグローバル系学部の集約を予定しており、学生数5,000名規模のキャンパスとなります。

※経営学部は、国際経営学部(仮称)へと名称変更を構想中

Ⅱキャンパス新総合計画概要

キャンパス新総合計画は、みなとみらいキャンパス開設、経営学部、理学部の移転に伴う横浜キャンパスマスタープランの見直し、体育・スポーツ施設の整備、附属学校及び大学の体育施設のある中山キャンパスを含めた総合的なキャンパス整備計画です。

本総合計画は、みなとみらいキャンパス開設までを第1期事業(2018年度～2020年度)、理学部の横浜キャンパス移転までを第2期事業(2021年度～2022年度)、理学部移転後の2023年度から創立100周年までを第3期事業として構想しています。

なお、湘南ひらつかキャンパスの利活用については、2023年を目途に計画の策定を進めます。

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
本学の動き	創立90周年 将来構想実行計画(2018-2028)策定 中長期財政計画(2018-2028)策定										創立100周年
みなとみらい キャンパス計画	みなとみらいキャンパス建設			みなとみらいキャンパス開設 ・国際日本学部(設置構想中) ・外国語学部 ・経営学部 移転							
キャンパス 新総合計画	新国際学生寮(仮称)建設										
	30号館(宮院会館(仮称))建設										
		体育・スポーツ施設の充実(中山キャンパスグラウンド整備等、体育・スポーツ施設整備)									
		横浜キャンパス図書館改修									
		理学部移転に伴う横浜キャンパス既存校舎改修及び理学部・工学部再編に伴う実験施設棟の整備									
新学部構想	国際日本学部(設置構想中)開設準備		国際日本学部(設置構想中)開設								
教育組織新総合計画	理学部・工学部再編など各学部等の新機軸による教育プログラムの充実					理学部移転 (横浜キャンパス)					

※上記各計画のスケジュールは今後の検討状況により変更となる可能性があります。

■中長期財政計画概要

中長期財政計画(2018-2028)は、将来構想実行計画(2018-2028)の最重要施策である、みなとみらいキャンパスの開設、横浜キャンパス及び中山キャンパスの施設整備計画、国際日本学部(設置構想中)等新教育組織の設置や新機軸による教育組織の再編などを実行しつつ、創立100周年以降もさらに発展するための安定的な財政基盤を確立することを目指した計画です。

中長期財政計画(2018-2028)で実現を目指す主な施策

- 各学部等の新機軸による教育組織の充実
- 新機軸による教育プログラムと教員組織の充実
- 教育環境整備のための施設設備の充実
- キャンパス新総合計画の推進

中長期財政計画(2018-2028)では、上記の事項の実現に向け、キャンパス新総合計画で示している第1期(2018年度～2020年度)、第2期(2021年度～2022年度)、第3期(2023年度～2028年度)の事業期ごとに諸施策を実施します。



附属学校の実行計画

●常に学び続け、社会的に評価される教育の実践 ●地域で一番の中高一貫共学校

1. 21世紀の知識基盤社会、グローバル社会の中で「主体的に考え、判断し、行動できる人」を育成する。
 - A 教科学習活動による自己表現力の向上
 - B 特別活動による主体的行動力の育成
 - C 課外活動による自律的活動力・安全管理能力の養成
2. 進学校として、確かな学力を基本に「社会的に評価される進学実績」を維持する。
 - A 基礎・基本学力の定着をベースにした大学進学学力の向上
 - B 生徒の将来を見据えたキャリア教育の推進
3. 多様な学習活動を通じて、「創造性と豊かな人間性」を涵養する。
 - A 豊かな人間性の涵養
 - B 創造性の涵養